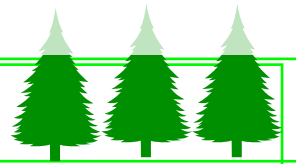




みつぎ便り



第221号 2月号 令和7年2月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



ツワブキ(石路)

中央通りと首都高速5号線の交差点の公園入口を入り直ぐ左手に見られる、菊に似た黄色い花と大きめな葉が特徴です。葉に光沢がある露の意味の艶路が由来となつて、花の名前になつたと言われています。他の花が終わったところに黄色の花が咲き初冬の季語にもなっています。

本州の太平洋側では福島県以南、日本海側では石川県から西の地域に分布しています。主に海岸沿いに自生し、岩の上や崖の上などに生えます。花期は秋から初冬にかけて、葉の間を抜けて花茎を伸ばして高さ三十〜八十センチになり直径五センチ前後の黄色い花が咲きます。

昔から食用野草や民間薬として知られ観賞用に庭に植えられることも

あります。食用になるのは主に未だ葉が開く前のよく伸びた、褐色の綿毛に包まれている頃の若い軸の部位で三〜六月ごろが適期とされます。薬用は主に葉茎で、八〜九月ごろに採取し天日乾燥したものを生薬としてのどの腫れ、おでき、切り傷等の治療に使われます。(重)

ニホントカゲ

まだまだ、寒い日が続きますが、暦のうえでは立春もすぐそこで春の足音も聞こえてきそうです。ちょっと季節はずれですが、以前、みつぎ便り三六号、九月号で紹介したニホントカナヘビとよく似たニホントカゲを今回は紹介します。

昭和三十年代の子どもの頃は原っぱ、公園、空き地などで見かけたトカゲを捕まえては、家に持ち帰り壺や空き箱に土や瓦のかけらを入れ、飼ったものでした。特にニホントカゲは、キラキラと銀色のメタリックに輝く宝物のように見えた様に記憶しています。

ニホントカゲは、体全体に艶があり、頭から尻尾の付け根にかけて、



五本の黒と褐色の縦線模様があります。体長は二十〜二十五センチで、体長のほぼ半分が尻尾です。幼体の尻尾は青色をしています。

ニホントカゲは、今は東京都では絶滅危惧種となつています。トカゲの尻尾切りの話はご存じかと思いますが、身体を押しえられるとか、掴まえられたりすると尻尾の一部分を切り離し、その部分をしばらくの間動かすことができる機能を持っています。トカゲにとつてはわが身を守るためですが、人間社会では組織を守るためのこんな行為はあってほしくありません。(圭)